

◆ナイルの恵み豊かな交易の地「アスワン」



写真：アスワンのナイル川

ナイルの真珠「フィラエ神殿」



イシス神殿第1 塔門

フェイラエ神殿

「ナイルの真珠」と謳われたフィラエ島は古代からイシス神の聖域として信仰の対象となり、プトレマイオス朝から古代ローマ帝国時代に築かれたイシス神殿をはじめとする貴重な遺跡が残っている。しかし、アスワンハイダム completionにより水浸が始まり、ハイダムの完成により完全に水没してしまったため、ユネスコにより地勢が似ているアギルキア島に移築された。

現在のはかつてのアギルキア島をフィラエ島と呼んでいる。



トラヤヌス帝のキオスク



女神へ供物を捧げる王

古代からの交易の要所「アスワン」

アスワンはヌビア地方の金や、さらに南の国から運ばれた香油、黒檀、象牙などが集まる交易の中継地として栄えてきた。また神殿建築にかかせない花崗岩の産地でもありナイル川を使って下流の都市へ巨岩を切り出した港町として知られる。古代からこの地に住むヌビア人の影響もあり他のエジプトの町よりアフリカ的な雰囲気を感じられ街歩きも楽しい。



スーク通り風景（アスワン）



フィラエ神殿の壁画彫刻



◆建築王と呼ばれるラムセス2世の普及の名作「アブシンベル大小神殿」



写真：アブシンベル小神殿

アブシンベル大神殿&小神殿

アブシンベル大神殿    ラムセス2世の巨像



ヒッタイトの捕虜のレリーフ

ファラオの中のファラオと称されるラムセス2世は身長180cm以上の体躯を持ち、89歳までの生涯のうちに200人もの子供をもうけたといわれる。



ラムセス2世の巨像

ラムセス2世とアブシンベル大小神殿

砂漠の中に突如として出現する巨大岩窟神殿。新王国時代第19王朝の紀元前1250年頃にラムセス2世が建造した。太陽の王と讃えられたラムセス2世は、太陽に輝くヌビアの地をこよなく愛したという。そして聖地アブシンベルを見出した王はヌビアの地においてファラオの権力が永遠のものになるよう、巨大な神殿を造りあげた。時と共に、神殿は砂に埋もれ、忘れ去られたが、19世紀に再発見され、再びその雄姿を現した。そして1060年代には水没の機器に晒されたが、ユネスコの呼びかけに世界各国が応えた結果、神殿は小さなブロックに切断され移築された。1963年から5年の歳月をかけての大事業となった。



アスワン-アブシンベル間の道路

アスワンからアブシンベルの間は広大な砂漠地帯が広がる。アスワンハイダムにより生じた巨大なダム湖「ナセル湖」を東に見る。アブシンベルまでの舗装道路はアスワンハイダムの建設及びメンテナンスのため整備され道路状況は非常に良い。